

中央公民館だより

そうぞうながと



発行 | 長門市中央公民館運営協議会 広報担当
TEL | 0837-23-1181 FAX | 0837-22-3648
E-mail | chuo.kominkan@city.nagato.lg.jp

中央公民館広報紙
No.182



9月3日(土) 深川中学校体育大会



スローガン

創

～信頼で共に築く活躍の場～

もう来館されましたか？

長門市総合文化財センター（愛称：ヒストリアながと）は
長門の自然・歴史・文化のお宝を再発見できる場です。

玄関を入って右手にある長門市の年表は、今の令和の時代から、長門に人が住み始めたときとされる旧石器時代にあたる約一万六千年前の日置の雨乞縄文人まで遡って、長門の主な出来事を記載しています。「鑑賞の際には、『見どころ』に目を通していただいた後に、それぞれの展示物を見ていただくと、展示のねらいがより分かると思います。以下、しっかり見て帰ってほしい、五つのコーナーの見どころを簡単に紹介します。

①長門のはじまり：雨乞台遺跡から出土した用途に応じて石を加工した石器類の数々 ＊雨乞の森を背景に、再現品を手写真撮影をどうぞ！

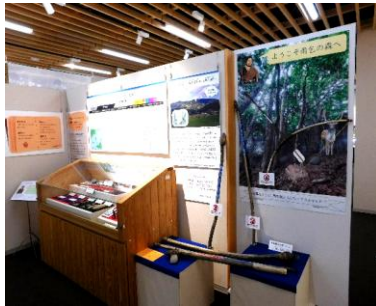
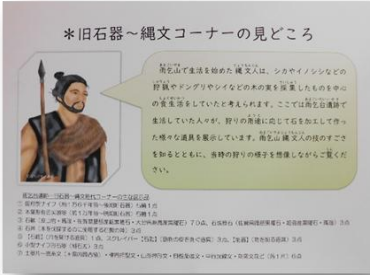
②縄文から弥生時代のながと：弥生の集落跡、向津具本郷山崎遺跡出土の大型壺は必見！（復元すると、なんと１メートル近い大きさになります。）

③古墳時代のながと：ミニチュア土器に残る人の指の痕と、虫追いの祭具とされる土馬・土豚の表情に注目。（後世のサバー送りにつながります。）

④古代（飛鳥・奈良・平安）のながと：中央政権の浸透／長門深川廃寺出土瓦

⑤特別展示コーナー：長門市の誇る超お宝の考古資料２点。王屋敷出土の国の重要文化財指定の『有柄細形銅剣』（複製品）と、仙崎塚塚横穴墓群出土の山口県有形文化財指定の『壺鏡』（長門市所蔵）と製作当時の複製品。

“ヒストリアながと”古代コーナーで、土器を見ながら「わくわくドキドキ」されることをお待ちしております。（古代コーナー展示担当者 新江田）



わが家の宝子



みよし 三好 諒さん(4歳)

お外遊びが大好きで、いつも元気いっぱい走り回っています！まだまだ甘えん坊な一面もありますが、ケガなく健康に、妹と仲良のびのびと育ってほしいです。

今月のうた

山茶花クラブ

秋晴れや縁に微睡む老尼僧

藤井 文則

向日葵や視線の数と種の数

岡田 フジエ

一閃を走り書きして葛こぼる

佐貫 勝代

長門短歌会

長電話「話をきいてなかったでしょ」

図星を指されごめんなさいな

吉富 成子

なぜだろう大人になっても不思議で

まだ読みこなせぬ星の王子様

原田 満江

宿題をしたのと聞けば後でする

アツケラカンの君が心配

佐貫 勝代

深川地区の人口

世帯数	5,990	(+ 5)
男性	5,714	(- 4)
女性	6,606	(-11)
計	12,320	(-15)
(R4 年 9 月 1 日現在)		

中央公民館 10月の行事予定

1(土)	子どもクラブ
1(土)・15(土)	キッズエクササイズ(3B 体操)
5(水)	スマホ教室 ※募集は締切済
8(土)・22(土)	わくわく土曜塾
12(水)・26(水)	親子でJミックス

編集後記

▼いつの間にか季節は秋です。コロナ禍で三年ぶりの開催となった「赤崎まつり」で赤崎神社楽踊が奉納されました。426年の歴史をもつ神事に多くの観客が釘付けとなりました。湧き起る大きな拍手、露店に集う人々の賑わい、「コロナ前を髣髴とさせる雰囲気」に感無量でした。

赤崎祭り3年ぶりに開催　コロナ終息の祈りをこめて



月の前の伶楽(江良)



▶三番叟(正明市)

▶湯本南条踊

9月11日(日)、赤崎祭りが3年ぶりに開催され、国の重要有形民俗文化財である「赤崎神社楽栈敷」で伝統民俗芸能が奉納されました。すり鉢状の栈敷席から「楽踊」の胴取の鮮やかな宝冠や「湯本南条踊」のユニークなメイクの顔に視線が注がれ、しきりにシャッター音が鳴り響いていました。

慶長元(1596)年に牛馬の病気が流行し、村人たちの祈願で病気が終息したことへの感謝から、各地の踊りを奉納したことが祭りの始まりとされており、踊り手も観客もコロナの終息を祈りながら426年の伝統の重みを感じるひとときとなりました。



▲イタリア人夫妻が伝統芸能を体験

今年は山口県で第30回地域伝統芸能全国大会が開催されており、長門市においてもプレイベントとして、ルネッサなごとを会場に『山口・長門の地域伝統芸能ワークショップ』が開催されました。

江良の楽踊は8月21日に「赤崎神社楽踊」として、文化庁委託事業の「子供たちの伝統文化の体験事業」に参加し、劇場ステージで初舞台を踏みました。ガールスカウトや当公民館で活動されているなどと日本語クラブの外国人の皆さんがステージに上がり、日本の伝統芸能を体験しました。

親子でプログラミングに挑戦 夏休みおたすけ・特別講座

8月28日(日)、長門市しごとセンターで「親子でプログラミング」講座を開催しました。小学校の授業で実際に使うロボット教材を親子で体験し、ロボットを様々なコースの上で動かしました。子どもたちからは、「僕も色んなプログラムを組んでみたい」といった声が聞かれ、親子で一緒に考える姿もみられました。



▲プログラミング教材mBot

最初に深川小学校の谷村教諭(山口大学教職大学院長期研修中)から「キャリア教育の視点を生かした小中・地域連携について」説明を受けたあと、グループに分かれて熟議を行いました。



依山・深川みすゞ学園 合同学校運営協議会(報告)

9月20日(火)、依山・深川みすゞ学園4校合同の学校運営協議会が深川小学校体育館で開催され、出席しました。今回は「地域でめざす子ども像」をテーマに進められました。

地域でめざす子ども像
○長門を愛し、あいさつでつながる元気な子
○自分の思いや考えを伝えられる素直な子

本質を突いた言葉だと思えます。まさにわれわれ大人の責任は大きいのだとあらためて感じました。ふるさとへの思い、その後ろ姿、子どもへのまなざし、そして日々の言動が問われているのではないでしょうか。



「長門の未来を創るのは子どもたち、それを育てるのは私たち大人です。」

熟議題は「ふるさと愛を育んで成長すると、その子の成長にどのようなことがあるだろうか。」でした。話し合いの中では、幼少期からふるさと長門のよさを体験すること、様々な人との交流の大切さを再確認したり、心の拠り所、居場所、自己肯定感、長門の活性化、Uターンにつながるなど様々なキーワードが出されたりしました。また、みすゞ学園長の白澤校長が閉会のあいさつで言われた言葉も印象に残りました。

今回は、長門市社会福祉協議会にお願いをし、9月に実施した深川小学校4年生福祉体験学習の一環として実施した手話体験と点字体験の1コマです。

手話の指導をされたのは「長門手話友の会」の植村明仁さん、安野美紀さんと、YOASOBIの曲「ツバメ」を使うなどみんな楽しく手話体験ができました。

点字の指導は「点訳ひまわりの会」の天津礼子さんと伊藤貴三子さんで、点字版を使った点訳などを体験しました。

この体験を通して、目や耳の不自由な人の苦労や大変さに気づき、相手の立場に寄り添う大切さなどを学ぶことができました、貴重な時間となったようです。

【地域協育ネット】深川小学校 手話・点字体験



点字版を使った点字体験



手話の実技体験